

巻頭言

今年新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本学の活動も大きな制約を受けることとなりました。その中で、全学の学生・教職員の協力と工夫により、年度内に予定されたカリキュラムを実施するとともに、研究活動・社会貢献も可能な限り継続できており、紀要第17巻も発刊にこぎつけることができました。それだけでなく、劇的に変化した社会状況の中で、それを乗り越え、適応する中で、将来に向けての新たな活動の可能性が開けてきます。遠隔講義という新たな教育手段の飛躍的な進化や、学内外でのウェブ会議の利用による効率化・高機能化など、感染拡大がなければこれだけ早く進むことはなかったでしょう。是非、このような経験と成果を将来に活かしたいと思っています。

本巻では、まず里山基盤科学技術の社会実装モデルプロジェクトの特集を組んでいます。里山工学では、大学として科学的な裏付けに基づいて里山の特性を理解し、利用に結び付けるという、地道ではあるが確実性のある成果を一步一步積み上げています。これにより、一時的ではない、確固たる知見が蓄積されることが期待できます。また、高知県を対象とした生活・文化に関わる本学の調査研究の一旦も紹介されており、本学の多面的な活動の一部がご理解いただけるものと思います。さらに、細分化された学問分野にはなじまず、通常の学術雑誌では取り上げられない研究成果の紹介も紀要の持つ機能の一つであります。

これらの内容をご覧いただきながら、大学の担う多面的な機能を感じ取っていただければ幸いです。

学長 磯部雅彦

